

年忌について

『仏説地藏菩薩発心因縁十王經・成都府大聖慈恩寺沙門藏川述』

① 中国の十王思想・

不動明王・釈迦如来・文殊菩薩・普賢菩薩・地藏菩薩・弥勒菩薩・藥師如来・観音菩薩・勢至菩薩・阿弥陀如来

- 「第一の七日は秦広王の所 中陰に 重ねた業数 塵山のよう取り調べ
- 「第二の七日は初江王の所 亡者はついに奈河渡る 大勢 河渡りゆく 先導の牛頭は鉄棒 鬼卒は叉 腰打ちたたく
- 「第三の七日は宋帝王の所 思いいる冥途の長さ その険しさを 各人が地名を聞いて、まだここか五官王へと送られ
- 「第四の七日は五官王の所 秤に業はかる、左右の童子書きしるす業罪の軽重決めるは自分の昔の所業それだけ
- 「第五の七日は閻羅王の所 怒声やむ 恨みのころ 業手鏡 見せられて やつと気がつく 生前したこと
- 「第六の七日は變成王の所 恐怖がせまり 愚を諭される ほとけの功德 その力 ゴールは天界 それとも地獄か
- 「第七の七日は大山王の所 冥途に入りて善行の判決まだまだ 未確定 亡者にもたらず 追善あるなら
- 「第八に百日目は平等王の所 百日たつても苦は止まぬ 手枷足枷、汝等が追善作善なすならば その善行により生天？
- 「第九の一年目は都市王の所 辛苦たり男女もともに福業積みよ六道の輪廻の行き先まだ、未定造経造仏で、迷津を脱出
- 「第十に、三年に達したら五道輪廻王の所三度目の 閻所を越えて ここに来た 悪人どもは 追善たよれ
- 不善なす 者ども 生まれ 替わつても 千日もたず すぐに落命 十度の斎を完遂すれば、その者は生天します。

② 十三佛信仰と各忌の意味合い。十三佛の事は、『弘法大師逆修日記事』に始めて説かれている。
名土屋の宝性院有快(ゆうかい)法印(二三四五から一四二六)眞言宗

- 七回忌 阿閼如来、攝真実經に曰く。東方不動如来の三昧に入つて、常にウン字を轉すべし。
- 十二回忌 大日如来、大日経に曰く。無量俱胝劫、造る所の衆罪業、この曼荼羅を見れば生滅して悉く余り無し。
- 三十三回忌 虚空蔵菩薩、礼三十五仏名経に曰く。虚空蔵をとる者、四重五逆の罪悉く生滅し、三業の過皆除滅す

③ 開蓮忌 ……三目齋・見王斎

開蓮忌法事の起源は、『釈氏要覽』下巻の雜記に「三目齋」の見出しで「北人亡す 三日に必ず僧を招いて法事を行う。これを見王斎という」にある。『眞報拾遺記』に、北齊の梁氏が死に臨んで、妻に召使や馬を殉死させよと遺言を残した。このため召使が殉死したが、そのうちの一人が四日目に生き返り、あの世での体験を話した。冥土に行つて主人が鎖につながれ苦しんでいるのを見たが、三日目に見ると、鎖から解かれていた。その釈をきくと、妻子者が死後三日目に僧を招き、読經をしたため、罪障は消滅し主人はいいところに生まれたという。この話から三日目の追善供養が始つたといわれる。

- ④ 一七・二七・三七・四七・五七・六七・七七・…四十九日 忌中(きちゅう・己の心に当たる) 中有
- 一周忌・三回忌・七回忌・十二回忌・十七回忌・二十二回忌・二十五回忌・二十七回忌・
- 三十三回忌・三十七回忌・四十二回忌・四十七回忌・五十回忌・六十一回忌

年忌の並びについて(数字の七が隠れている)

数霊字…七は明・明確の意・次の世を意味する。七回忌…数(字のカズ)と名(前)の7。

- 「七・八・九・十・十一・十二・十三」で間が六年、十二回忌・二十二回忌・三十二回忌数の七年と云う。
- 二十五は七・六十一で七である。
- 717273747は名の七と云う。

- 初重累七
- 初七日忌
- 二七日忌
- 三七日忌
- 四七日忌
- 五七日忌
- 六七日忌
- 七七日忌

二重累七	
一の七・名の七	七七日忌
数の七	
二の七・名の七	七回忌
数の七	①②③④⑤⑥⑦
三の七・名の七	十二回忌
四の七・名の七	十七回忌
五の七・名の七	二十二回忌
六の七・名の七	二十七回忌
七の七・名の七	三十三回忌

二十五回忌・六十一回忌
七の靈數
四九日・インド・
輪廻転生、六道
一周忌・三回忌・
儒教思想

初七日は、命日を第一日と
数えた第七日、つまり、
命日の六日後である。